

円満想続の3K「感謝・絆・供養」

月刊ニュースレター

想 続

Vol. 22 (2012年7月号)

発行：一般社団法人 日本想続協会



〒107-0052 東京都港区赤坂 4-1-1 SHIMA 赤坂ビル 5F

TEL 03-6454-1567 FAX 020-4664-9664

E-mail [info@n-sk.org](mailto:info@n-sk.org) (担当：内田)

☆定期購読（無料）のお申込は上記までどうぞ。

## 負の遺産

暑中お見舞い申し上げます。東京電力から「電気料金値上げのお願い」がポストに入っていましたね。大飯原発はついに今月から再稼動。人の命より経済を優先させるとは恐ろしいことです。首相官邸前など全国各地で脱原発デモが起こっていますが、新聞・テレビではあまり報道されていません。

京都大学原子炉実験所助教の小出裕章氏の著書『日本のエネルギー、これからどうすればいいの？』を読みました。小出氏は「電気なんか足りようが足りなかりょうが、命をおびやかし、弱いものにしわ寄せをし、自分が生み出す毒物の最後の後始末さえできない原子力をやってはいけない」と専門家として断言しています。宮沢賢治の言葉「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」を引用し、「力の弱いものを踏み台にしてはならない」と説いています。

いま日本では、ひとりあたり 12 万キロカロリーぐらいのエネルギーを使っていますが、ひとりあたり 4 万キロカロリー一使えば十分に長生きできるそうです。「『自分のいのちが大事』であると思うときには、『他者のいのちも大事』であることを心に刻んでおくこと」という小出氏の言葉が、ずしんと胸に響きました。

☆ ～ ☆ ～ ☆

寺ネット・サンガ代表で僧侶の中下大樹氏は、自殺・貧困問題に取り組んでいます。先日、なんと警察から中下さんへ、こんな電話があったそうです。「生活に困窮し、自殺を図った自殺未遂者を警察で保護している。所持金もなし。福祉事務所に電話をしても『家族に面倒を見てもらえ』と言われ、家族に電話をしても『面倒を見切れない』と言われ、どうしてよいか分からない。自殺対策に取り組んでいるあなたに面倒を見てほしい」というのです。

お笑いタレントの親が生活保護を受けていたことが話題となり、法律で家族間の扶養義務を強化すべきという意見まで出ました。中下氏はブログで「日本の戦後の民法は個人を単位に物事を定めているが、都合のよい時にだけ『家』という概念が出てきて困ったものだ。私たち一人ひとりが『どういう社会にしていきたいのか?』『限りある命をどう生きるべきか?』など、個々人に主体的に判断していく覚悟が今ほど求められている時代はない」と述べています。

☆ ～ ☆ ～ ☆

相続では、亡くなった方（被相続人）の財産より借金のほうが多い場合には、相続人は、3ヶ月以内に家庭裁判所で相続放棄をすることにより、財産も借金も相続しなくて済みます。もっとも、たとえば夫が借金を残して亡くなった場合には、妻と子だけではなく、第2順位の父母や第3順位の兄弟姉妹（兄弟姉妹が先に亡くなっていれば甥姪）まで、相続人全員で相続放棄する必要があります。

一方、放射線に汚染された国土や1000兆円にも上る国の借金など、私たち大人が遺した「負の遺産」については、私たちの子孫は、日本に住み続ける限り相続放棄することはできません。政治家だけでなく私たちひとりひとりに責任があります。原発問題も震災復興も社会保障と税の改革も、「総論賛成・各論反対」では、子孫にとんでもない日本を相続させることにならないでしょうか。

「節電はするけど、便利で快適な生活は手放したくない」「震災の被災者は応援したいが、自分の町にがれきを受け入れるのは断固反対だ」「これまでさんざん働いてきたのだから定年後は遊んで暮らしたい」「自分の年金が減るなどともんでもない」「医療費は際限なく使いたい」「増税などもってのほかだ」——このような老人ばかり増えたら、いったい日本はどうなるのでしょうか。若い人が子を産み育てる希望を持たずに少子化がこのまま進めば、2055年には、高齢者ひとりを現役世代ひとりが支える肩車型社会になるといわれています。

☆ ～ ☆ ～ ☆

聖路加国際病院の日野原重明先生は『新老人の会』を主宰し、「若い人から、あんな風に歳をとりたいと言われるような老人になろう」と提唱しています。子や孫の幸せを願わない人はいません。「いくつになっても元気で働き、社会の役に立てることが幸せ」という価値観を共有し、少しでもよい日本を子孫に遺す努力をしていきたいですね。（内田麻由子）